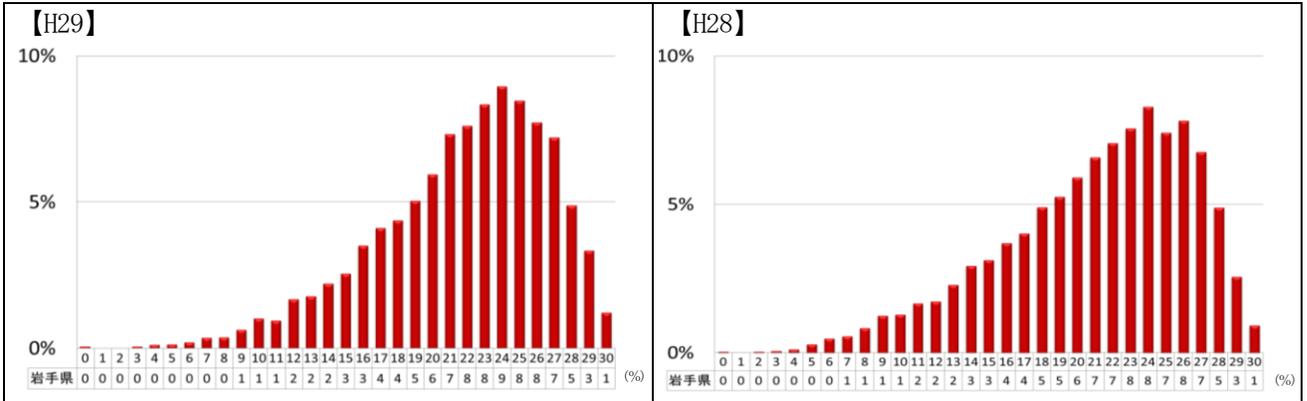


# 授業改善の手引 小学校第 5 学年社会

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



○ 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 24 問、平均正答数は 21 問です。昨年度の分布と比較して、山の位置や形はあまり変わっていません。  
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

### (2) 領域等の正答率 (正答率の ( ) の数字は平成 28 年度のもの、〈 〉 の数字は平成 27 年度のもの)

領域等	正答率	観点	正答率
身近な地域や市 (2 問)	79%	社会的な思考・判断・表現 (10 問)	65% (63) (61)
地域の人々の販売 (3 問)	88%	観察・資料活用の技能 (11 問)	76% (71) (83)
地域の人々の生活の変化や願い (3 問)	90%	社会的な事象についての知識・理解 (9 問)	76% (76) (70)
地域社会における災害・事故の防止 (4 問)	81%	活用 (4 問)	69% (51) (54)
飲料水の確保や廃棄物の処理 (4 問)	61%		
県の様子 (4 問)	77% (73) (73)		
我が国の国土の自然 (5 問)	55% (56) (66)		
我が国の農業や水産業 (5 問)	66% (59) (56)		

### (3) 結果概要

- 「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」の正答率は、昨年度の正答率を 2～5 ポイント上回っています。特に、農業の作業時間の変化について、資料を読み取って考える問題（思考・判断・表現）で改善が見られました。
- ◇ 「社会的な事象についての知識・理解」については、昨年度と同じ正答率となっています。等高線や雨温図等、基本的な資料の読み取りについて課題が見られました。
- 活用に関する問題（小問 8, 20, 28, 30）の正答率は 69% です。特に、日本の領土の広がりについての問題や季節風についての問題で課題が見られました。

### (4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	出題のねらい (内容)	H28 比較問題 No
○1	80	▲15	地図記号の理解をみる問題	1
○2	79	▲2	学校の周りの様子について、方位の知識をもとに地図を読み取る問題	2
○6	96	0	道具と暮らしの変化について、古い慣習と比べる問題	6
○11	91	6	火災への対応について、消防署と関係機関の連携を資料から読み取る問題	9
○17	90	8	47 都道府県の名称と位置の理解をみる問題	16
○18	76	0	等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取る問題	17
◇20	57	7	岩手県の交通網の様子について、複数資料を関連付けて考え、説明する問題	19
●25	30	1	国土の気候の概要の理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取る問題	23
○29	79	12	農業の機械化による作業時間の変化について、資料を読み取って考える問題	28

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		主な地図記号を理解している。	3・4年(1)ア	知	経年	80	2	4	80	12	1		0
	(2)	2		学校の周りの様子について、方位の知識をもとに、地図を読み取ることができる。	3・4年(1)ア	技	経年	79	6	8	79	7	1		0
2	(1)	ア	3	スーパーマーケットの売り場にみられる便利さの工夫について読み取ることができる。	3・4年(2)イ	技		96	0	1	2	96	0		0
		イ	4	スーパーマーケットの商品の値段の付け方に関する工夫について読み取ることができる。	3・4年(2)イ	技		97	1	97	1	1	1		0
	(2)	5	スーパーマーケットの売り場にみられる工夫や目的について、資料をもとに考えることができる。	3・4年(2)イ	思		70	10	7	70	12	0		0	
3	(1)	6		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化を理解している。	3・4年(5)ア	知	経年	96	0	2	96	1	1		0
	(2)	7		暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの変化について考えることができる。	3・4年(5)ア	思		88					12	88	0
	(3)	8		地域の人々が受け継いできた年中行事に対する人々の願いについて資料を読み取って説明することができる。	3・4年(5)イ	思	活用	85					10	85	5
4	(1)	9		事故に備えるための設備の働きを理解している。	3・4年(4)ア	知		98	0	0	1	98	0		0
	(2)	10		安全マップを読み取って、事故を防ぐための工夫について考えることができる。	3・4年(4)ア	思		62	62	8	12	7	9		0
	(3)	11		消防署と関係機関が連携して、火災に対処する体制をとっていることを資料から読み取ることができる。	3・4年(4)イ	技	経年	91	2	1	6	91	0		0
	(4)	12		火災通報時の連絡先について理解している。	3・4年(4)ア	知		73					26	73	1
5	(1)	13		廃棄物の処理の仕方の工夫に関する資料を読み取ることができる。	3・4年(3)イ	技		89	89	4	3	1	3		0
	(2)	14		廃棄物を資源として活用する取り組みについて、資料を読み取って、考えることができる。	3・4年(3)イ	思		34	43	34	14	6	3		0
	(3)	15		飲料水の使用量と人口のうつり変わりに関する資料を読み取ることができる。	3・4年(3)ア	技		77	6	6	10	77	1		1
	(4)	16		水資源の有効な利用について考えることができる。	3・4年(3)ア	思		43	43	31	10	13	1		1
6	(1)	17		47都道府県の名称と位置を理解している。	3・4年(6)ア	知	経年	90	90	7	1	1	0		0
	(2)	18		等高線についての理解をもとに、地形の様子を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技	経年	76	4	76	13	6	0		1
	(3)	19		岩手県の特徴ある産業の概要に関する資料を読み取ることができる。	3・4年(6)イ	技		86	3	7	3	86	0		1
	(4)	20		岩手県の交通網の様子を、地形や人口と関連付けて考え、説明することができる。	3・4年(6)イ	思	活用 経年	57					35	57	8
7	(1)	①	21	世界の主な海洋を理解している。	5年(1)ア	知		82					16	82	2
		②	22	日本の領土の広がりについて理解している。	5年(1)ア	知		45	45	16	22	15	2		1
		③	23	主な国の名称と位置と日本の領土について理解している。	5年(1)ア	知		63	24	5	4	63	3		1
	(2)	①	24	季節風を理解している。	5年(1)イ	知		56					38	56	6
		②	25	国土の気候の概要についての理解をもとに、気温と降水量のグラフを読み取ることができる。	5年(1)イ	技	経年	30	30	26	30	9	1		2
8	(1)	26		日本の主な農産物の生産量と気候に関する資料を関連づけて読み取ることができる。	5年(2)イ	技		52	19	12	52	12	3		2
	(2)	27		稲作に従事する人々の年間を通じた工夫や努力について資料を読み取ることができる。	5年(2)イ	技		63	5	22	7	63	1		2
	(3)	①	28	稲作に従事する人々が、生産の効率を高めるための工夫や努力をしていることを資料から読み取って説明することができる。	5年(2)ウ	思	活用	67					26	67	6
		②	29	農業の機械化による作業時間の変化について、資料を読み取って考えることができる。	5年(2)ウ	思	経年	79					16	79	5
	(3)	③	30	稲作に従事する人々が、食の安全確保に努めながら生産の工夫をしていることについて考えることができる。	5年(2)ウ	知	活用	68	3	18	68	7	1		3
全体正答率								72							

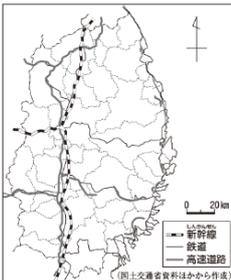
## 2 指導のポイント

(1) 「凡例」等を基に資料を丁寧に読み取らせるとともに、資料から分かる特徴を具体的に説明させましょう。

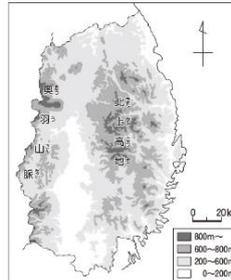
### ア 問題例とその概要【6】(4)・通し番号 20】(経年比較・活用問題)

〔問題文〕  
いつきさんたちは、岩手県の交通の様子について調べました。次の資料ア～ウを読み取って、道路や鉄道がどのようなところを通っているのか、「土地」「人口」という言葉を使って書きましょう。  
(社会的な思考・判断・表現)

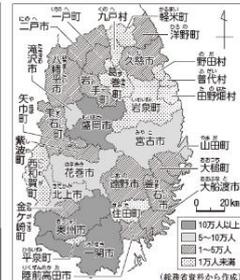
資料ア 岩手県の主な交通の様子



資料イ 岩手県の土地の様子



資料ウ 岩手県の人口の様子



《正答例》 土地が低くて、人口の多いところを通っている。

《解答状況》 【正答率】57% 無解答率：8%

#### 《誤答分析》

児童の誤った記述例として多く見られたのは、「土地が高い」「土地が広い」「人口が減ってきた」というように、それぞれの資料から分かる岩手県全体の様子を記述しているものや、資料アで読み取れる特徴が、資料イ・ウと関連付けて（重ね合わせて）読み取れていない解答が多く見られました。

### イ 指導上の留意点

複数資料を関連付けて考える力を身に付けさせるためには、まず、(特に3・4年生の段階で)1つの資料を正しく読み取る技能を育てることが大切です。普段から資料の表題、凡例、目盛り、単位、変化などに着目させること、また、資料から分かる特徴を自力解決して分かったことを発表させたり、黒板に拡大した資料を掲示して全体で確認したりしながら、資料を読み取る力をつけた上で、徐々に資料相互を関連させて読み取り、考えたことを説明する活動を重視していきましょう。

具体的な指導方法としては、授業の中心となる資料は、黒板に提示して全員で一緒にポイントに印を付けて確認するとともに、他者と交流して新しい視点に気付かせるなどの工夫が考えられます。また、資料によっては、透明なシートを重ね合わせたり、スライドを活用したりするなど資料の提示方法も工夫しましょう。

(2) 授業の中で、地図帳や地球儀を積極的に活用して理解を深めさせましょう。

### ア 問題例とその概要【7】(1)②・通し番号 22】

〔問題文〕  
日本の北のはしから南のはしまでのきよりは、およそ何kmですか。あてはまるものを、次の1～4から1つ選び、その番号を書きましょう。  
1 3000 km    2 6000 km  
3 8000 km    4 12000 km  
(社会的事象についての知識・理解)



《解答状況》 選択肢1:【正答率】45% 選択肢2:16% 選択肢3:22% 選択肢4:15% 無解答率:1%

#### 《誤答分析》

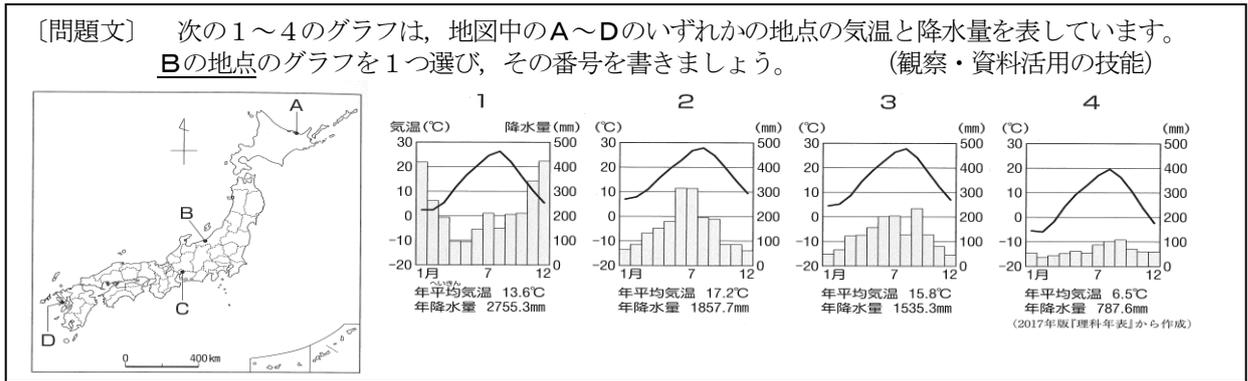
日本の領土の広がりについての問題でしたが、児童の誤った選択肢は、ほぼ同数でした。このことから、児童が日本領土の大まかな範囲について定着していないことや、左下の縮尺を活用して実際の距離を算出できることを身に付けていないために、自分の予想で解答したことが考えられます。

### イ 指導上の留意点

地理的な位置関係を扱う授業では、地図帳(児童用・教師用)を活用して、基本的な事項を確認するとともに、地理的な位置や条件、範囲等を確認する機会を児童個人・学級全体でもてるようにしましょう。また、日本の領土については、距離や地名等を暗記させるような活動ではなく、近隣諸国と我が国との位置関係を地図帳や地球儀を活用しながら丁寧に指導することを心がけることも大切です。

(3) 資料の見方や読み取り方を意図的・計画的に指導しましょう。

ア 問題例とその概要【7】(2)②・通し番号 25】(経年比較問題)



《解答状況》 選択肢 1 :【正答率】30% 選択肢 2 :26% 選択肢 3 :30% 選択肢 4 :9% 無解答率 : 2%

《誤答分析》

誤答例では、太平洋側の気候(地図C地点)の雨温図を選択した児童が多く見られました。各地域の降水量の特色が十分理解されていないことが原因であると考えられます。

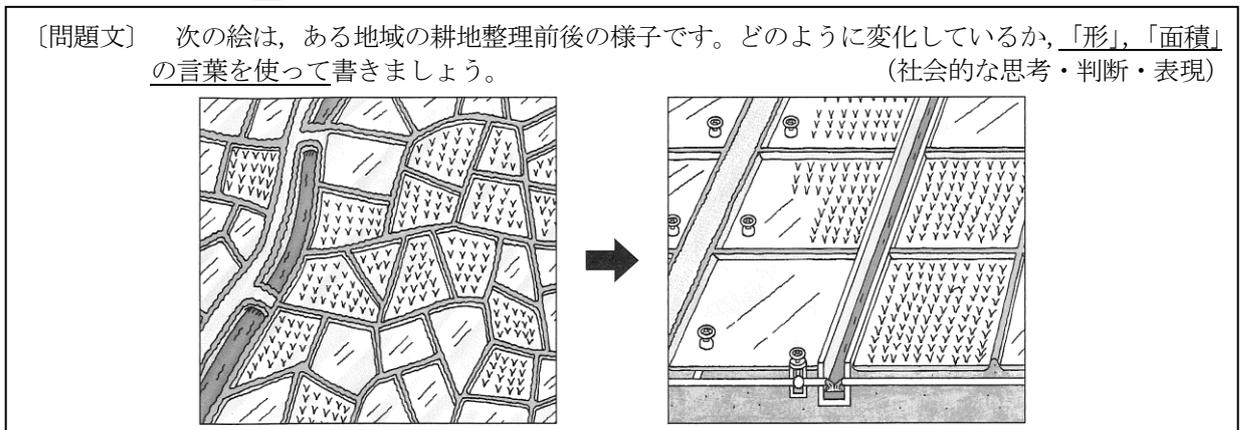
イ 指導上の留意点

国土の気候の概要については、地図帳、立体模型等を活用して調べ、白地図にまとめるなどの作業的な学習を取り入れることが考えられます。また、それぞれの地域になぜそのような気候の特色が見られるのか、絵図等で視覚的に捉えさせ理解できるようにすることも大切です。

資料の特徴に合わせて、必要な情報を読み取る技能を意図的・計画的に指導していきましょう。

(4) 学習問題について、児童が社会的な見方・考え方を働かせながら学習を進めていくことを大切にしましょう。

ア 問題例とその概要【8】(3)①・通し番号 28】(活用問題)



《正答例》 水田の形が整えられて、1つ1つの田の面積が広がった。

《解答状況》 【正答率】67% 無解答率 : 6%

《誤答分析》

誤答例については、「形が良くなった」「形がまっすぐになった」「面積が等しくなった」と解答する児童が多かったです。また、無解答児童も多く見られました。「どうすればお米をたくさん収穫できるのか(大量収穫)」、「どうすればお米を効率よく収穫できるのか(効率化)」などの考える視点、つまり「社会的な見方・考え方」がないままに、「耕地整理」前後の様子を単純に比較して、解答していることが原因であると考えられます。

イ 指導上の留意点

社会的な見方・考え方を働かせるために、「考える視点」を持ちながら学習を進めることが大切です。教科書にある南魚沼市の「地形」と「土地利用」の関係や、耕地整理を進めた「背景」に着目するなど、「なぜ」、「どのように」、「どうすれば」と考え続ける学習を進めましょう。学習の中では、根拠を持って説明する場面(グループ・全体)を設定したり、考えたことを自分の力で文章にまとめる活動を取り入れたりしましょう。